

日本を代表する画家である平山郁夫の言葉

広島県出身で、原爆後遺症に悩まされながらも画壇に立ち、後に東京藝術大学学長となり、今や日本を代表する画家である平山郁夫の言葉からです。

(被爆なさっているのに、なぜそのような強さを持てるのか？
という記者の質問に対して)

ええ、やはり目的があると…。
相当白血球が減少して、物理的にはいつまでもおかしくないという時に、《仏教伝来》という絵を描いて、これが画家として実質的なスタート、世にでるきっかけになりました。

そうすると「これはいける」という気持ちで、
へばった肉体を精神の方が凌駕したとは言えますね。
だから、ストレスのところでアドレナリンの活性化のほうがわずかに上で、「よしやるぞ」と。

その積み重ねで元気になって。本当はカラ元気なんですよ。
それでも立ち上がっていったということは、やっぱりこれは気持ちの問題でしょうね。

(平山郁夫著 『平山郁夫が語る薬師寺への道「大唐西域壁画」』
一満舎 より抜粋)